

復興計画プロジェクトの概況 【平成 26 年 3 月末現在】

No.	プロジェクト名	H25 年 12 月末の状況	H26 年 3 月末の状況
1	気仙沼市緊急産業復旧 P	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水産加工施設等集積地は H25 年度嵩上げ完了予定 ・ 赤岩港水産加工団地は、H26 年度造成完了予定 ・ 市所管の第 1 種漁港 31 港は、平成 26 年度までに復旧予定 ・ 水産業復興対策本部を継続して開催し、関係者と意見交換している。 ・ H25 年 7 月にサメの街気仙沼構想推進協議会設立 ・ H25 年 11 月に気仙沼水産資源活用研究会設立 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水産加工施設等集積地の嵩上げ工事は、一部区画を除いて完了。今後、道路部分についてライフラインと合わせて整備する。 ・ 水産加工施設等集積地への立地事業者数は、南気仙沼地区 61 社、鹿折地区 22 社、合計 83 社 ・ 赤岩港水産加工団地は、H26 年度造成完了予定。 ・ 市所管の第 1 種漁港 31 港は、H26 年度までに復旧予定。 ・ 水産業復興対策本部を継続して開催し、関係者と意見交換している。
2	世界一の魚市場プロジェクト P	<ul style="list-style-type: none"> ・ 魚市場整備検討のための委員会及び部会(施設部会、観光部会)を設置し、市震災復興市民委員会の小野寺サプリーダーと小山委員やリアス観光創造プラットフォームからも観光部会に参加して頂きながら、様々な意見を聴取している(施設部会、観光部会とも 2 回開催)。 ・ 現在、頂いた要望事項を施設規模や事業費、補助事業の有無等を考慮し整備概要(案)を作成中であり、作業終了後、各々の部会に提示する予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 魚市場整備検討のための部会を開催(平成 25 年度は施設部会: 合計 7 回, 観光部会合計 3 回開催) ・ 部会で協議した内容を部会案として魚市場整備のための委員会に提出の上、委員会において基本計画を固めることになった。(H26.6.4 委員会において基本計画決定)
3	造船・船用工業界の集約と連携(造船団地) P	<ul style="list-style-type: none"> ・ H25 年 5 月 21 日の復興交付金申請により予備調査が認められ、整備手法、候補地等を検討しつつ、プロジェクトの事業性を高めている。 ・ H25 年 10 月 1 日付で国土交通省から職員派遣があり、プロジェクトの実現に向け組織体制を整備している。 ・ H26 年 1 月に調査測量設計業務等について復興交付金申請予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 造船・燃油施設整備事業予備調査を実施。 ・ 第 8 回復興交付金にて、事業費(調査測量設計費及び用地取得費)の配分が行われた。
4	環境と防災に配慮したフォレストベンチ工法活用 P	<ul style="list-style-type: none"> ・ H25 年 11 月 5 日に検討部会を開催し、導入状況等を確認。活用に向けた検討を進める。 ・ 次回 H26 年 2 月頃を予定し、導入状況並びに課題の整理を予定 ・ 舞根 2 地区の防災集団移転促進事業地内で導入を検討中 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 舞根 2 地区の防災集団移転促進事業地内で導入を検討
5	気仙沼市再生エネルギー導入 P	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の事業が進行していることから、年 1 回程度(H25.2)、関係事業者と行政との情報交換会の開催は継続する。 ・ 個々の事業が検討・実施されているが、市全体のエネルギー戦略をどのように構築するかが課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先記に同じ

No.	プロジェクト名	H25年12月末の状況	H26年3月末の状況
6	三陸リアス・ジオパークP	<ul style="list-style-type: none"> ・ H24年11月に三陸ジオパーク推進協議会に加盟し、三陸沿岸の各市町村とともに、H25年9月24日に日本ジオパークに認定された。 ・ H25年11月26日に三陸ジオパーク気仙沼推進協議会設立総会の開催 ・ 市内ではジオサイト6か所、ジオポイント20ヶ所 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 左記に加え平成26年3月、ジオポイント簡易リーフレット及び解説マニュアルの作成
7	セントラルパーク(ユニバーサルデザインの公園)整備P	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種事業やまちづくりの進捗により話し合い等が持たれる予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 左記に同じ
8	商店街および中心市街地再生P	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土地区画整理事業が始まる鹿折地区においては、いわゆる「仮設の仮設」が整備されることとなった。 ・ グループ化補助の制度継続・弾力的運用について、機会あるごとに国等へ要望 ・ 市独自支援策として「地域商業等計画策定事業補助金」を創設し、商店街が行う再生計画づくりに必要な費用について、補助率5/6、上限500万円の補助を実施(制度実施期間:H25~H28) ・ 市内の各商店街関係者等と意見交換を頻繁に実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土地区画整理事業が始まる鹿折地区においては、「仮設の仮設」が整備されることとなった。(H26.5月着工、H26.8月下旬に完成・移転の予定) ・ 魚町・南町地区についても、土地区画整理事業に伴う新たな商店街構成の方向性について、関係者と随時協議を行っている。 ・ グループ化補助の制度継続及び弾力的な運用について、機会あるごとに国等へ要望 ・ 市独自支援策として「地域商業等計画策定事業補助金」を創設し、商店街が行う再生計画づくりに必要な費用について、補助率5/6、上限500万円の補助を実施することとした(制度実施期間:H25~H28) ※H25は申請0件 ・ 市内の各商店街関係者等と意見交換を頻繁に実施
9	特区活用漁業再生振興P	<ul style="list-style-type: none"> ・ 復興期における継続的取組として、H26年5月に水産業輸出促進等調査事業を実施し、ベルギー、ノルウェー等を調査予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 復興期における継続的取組として、H26年5月に水産業輸出促進等調査事業を実施し、ベルギー、ノルウェー等にて調査を実施予定。(H26.5.4~11実施済)
10	文化芸術芸能復興P	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援が必要な団体への用具補充は9割方完了。 ・ 行政の人員不足により各団体の自主的な事業展開の支援に留まっているが、市内外の公演のコーディネートを行い発表機会の確保と情報発信に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 左記に同じ
11	防災自然公園ベルト「海の照葉樹林」P	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置箇所、形態等について未検討 ・ 防災林等の設置状況を確認中 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 左記に同じ
12	水源の分散化(安全な水辺づくり)P	<ul style="list-style-type: none"> ・ マップ化にかかる基本資料を収集済 ・ 水源調査及びマップ化については引き続き検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マップ化にかかる基本資料を収集済 ・ 水源調査及びマップ化については、引き続き検討

No.	プロジェクト名	H25年12月末の状況	H26年3月末の状況
13	復興住宅整備P	<ul style="list-style-type: none"> ・ H25年6月から7月にかけて実施した入居仮申込みでは募集戸数(約2,000戸)を超える申し込みが寄せられた。 ・ 仮申込みの結果を受け、整備戸数を見直し希望者全員を受け入れる戸数確保に努めている。 ・ 仮申込みの第一・第二希望について入居世帯の選考を実施し約1,850世帯の入居地区を確定。 ・ 入居地区が確定していない約300世帯を対象に二次募集を実施し、H25年12月末までに全体で約2,000世帯の入居地区を確定。 ・ 現段階で入居地区が確定していない約100世帯については、H26年1月下旬から個別相談を実施し、個々の状況を把握しながら空き団地等への入居意向等を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現段階での有効申込み件数は約2,120件で、うち約2,080世帯の入居が確定または確定見込み(用地取得や設計の進捗により追加整備戸数の把握ができた段階で確定予定)となっている。残る40世帯は希望地区の空きを待っている状況にある。 ・ 昨年7月の仮申込み以降、災害公営住宅の入居に関する相談が30件余り寄せられている。追加申込み等の実施については、相談状況等を踏まえながら検討する。 ・ 住宅整備については、気仙沼駅前地区で1年余りの遅れが生じたことから入居予定者を対象に説明会を開催したところであるが、全地区について造成工事等の進捗の精査を行い、全体スケジュール(工程)の見直しを進めている。状況がまとまり次第入居予定者等へお知らせすると共に事業説明を行う予定。
14	企業・大学・研究機関誘致強化P	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業誘致については、これまでの取組と合わせて、岩手県北上市等に進出している企業を対象に企業立地のアンケート調査を実施 ・ 「ゴーヘイ！気仙沼の会」(事務局MURC)の会員等への情報提供も引き続き実施中 ・ 大学との連携協定による活動を引き続き行い、各団体との連携を強める。 ・ 本市への学部・学科等の誘致(設置)並びに産業振興に係る検討材料とするため高等教育機関(大学・専門学校等)に関する高校生アンケートを実施した。現在集計中。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業誘致については、企業立地セミナーへの参加や企業訪問活動を中心に取り組んでいる。 ・ 「ゴーヘイ！気仙沼の会」の会員等への情報提供も引き続き実施中 ・ 大学との連携協定による活動を引き続き行い、各団体との連携を強める。 ・ 本市への学部・学科等の誘致(設置)並びに産業振興に係る検討材料とするため高等教育機関(大学・専門学校等)に関する高校生アンケートを実施し、公表した。
15	観光メニュー開発P	<ul style="list-style-type: none"> ・ H25年4月に観光戦略会議の戦略を具現化する組織「リアス観光創造プラットフォーム」を設立。H25年6月に一般社団法人化。 ・ H25年10月18日に観光資源の磨き上げによる新たな観光プログラムの開発のため「チーム気仙沼」を設立。 ・ 第1弾として観光庁の支援により「気仙沼旅づくり塾」を開催し、モニターツアー造成のためのワークショップを実施した。H26年2月にモニターツアーを実施予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1弾として観光庁の支援により「気仙沼旅づくり塾」を開催し、モニターツアー造成のためのワークショップを3回実施した。また、観光資源や観光メニューに対する発地・着地の意識の違いを明らかにするためのギャップ調査(1,000人程度対象)を実施した。 ・ 平成26年2月22・23日に「気仙沼うんめもんツアー」をモニターツアーとして実施した。 ・ 平成26年3月に観光客のニーズに基づく観光情報発信のため、「気仙沼じゃらん」を発刊(20,000部)

No.	プロジェクト名	H25 年 12 月末の状況	H26 年 3 月末の状況
16	NPO・NGO との積極的協働 P	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気仙沼ファンクラブを設立し、H25 年 12 月 20 日現在の会員数は、4,351 名 ・ 「しごと分科会」は内容が多岐にわたり、市とNPOの共通論点が見いだせないため、プロジェクトごとに実施 ・ 「こども分科会」は事務局体制が整わないため開催できていない。 ・ 「仮設住宅分科会」は開催していないものの、今後の状況変化に応じて開催 ・ 「まちづくり分科会」は災害公営住宅等のコミュニティ形成について H25 年 10 月 24 日に開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気仙沼ファンクラブを設立し、H26 年 3 月 31 日現在の会員数は、4,570 名 ・ 「しごと分科会」は内容が多岐にわたり、市とNPOの共通論点が見いだせないため、プロジェクトごとに実施 ・ 「仮設住宅分科会」は開催していないものの、毎週金曜日に開催している気仙沼NPO/NGO連絡会において、状況共有や意見交換し支援を行っている。 ・ 今後の状況変化に応じて開催 ・ 「まちづくり分科会」は災害公営住宅等のコミュニティ形成について H25 年 10 月 24 日に開催
17	情報発信改革 P	<ul style="list-style-type: none"> ・ 震災翌日から連日記者会見を開催しており、現在は毎週2回実施。 ・ H24 年 12 月から KDDI 株式会社から派遣を受け広報業務支援員を配置。 ・ 市ホームページリニューアルを H25 年 6 月に実施 ・ 情報をより確実に周知するため「広報けせんぬま号外版」を H24 年 7 月より発行 ・ 制度周知や復興推進を図るため「けせんぬま復興ニュース」を H24 年 8 月より毎月 2 回発行 ・ フェイスブックを活用し、海外版と日本語版の気仙沼の情報を発信。 ・ 市政懇談会や応急仮設住宅居住者懇談会等を開催し、広聴及び情報発信に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 震災翌日から連日記者会見を開催しており、現在は毎週2回実施。 ・ H24 年 12 月から 26 年 3 月まで KDDI 株式会社から派遣を受け広報業務支援員を配置し、情報発信体制の見直しを実施。 ・ 市ホームページリニューアルを H25 年 6 月に実施 ・ 情報をより確実に周知するため「広報けせんぬま号外版」を H24 年 7 月より発行 ・ 制度周知や復興推進を図るため「けせんぬま復興ニュース」を H24 年 8 月より毎月 2 回発行 ・ フェイスブックを活用し、海外版と日本語版の気仙沼の情報を発信。 ・ 市政懇談会や応急仮設住宅居住者懇談会等を開催し、広聴及び情報発信に努めた。
18	復興シンボルイベント開催 P	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、タイミングを図り展開 ・ 震災からの復興の象徴となるような記念事業の資金に充てるため、気仙沼復興記念事業基金を設置(H25 年度 5,000 千円積立) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先記に同じ